

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 日本語教科書における複合動詞について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 郭, 翼飛 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00001446">https://doi.org/10.57529/00001446</a>

# 日本語教科書における複合動詞について

## Compound Verbs Found in Japanese Textbooks

郭 翼 飛

### 論文要旨

商業・貿易分野に従事する留学生が最も多いため、ビジネス場面に多く使われる複合動詞の<sup>がくしゅう</sup>学習が必要と思われる。しかし、<sup>ふくごうどうし</sup>複合動詞は学習困難点の一つとして、日本語教育において現在の日本語教材の開発または教育現場の状況から見ると、大きく立ち遅れていることは確かである。本研究は、<sup>ちゅうじょうきゅうし</sup>中上級日本語<sup>きょうかしょ</sup>教科書における複合動詞の出現頻度を明らかにした。さらに、<sup>びじねすかいわ</sup>ビジネス会話日本語教科書と比較して、就職活動や仕事場面などに多く使われた複合動詞の順位を考察した。その実態調査を通して、「恐れ入る」「申し伝える」「かけ直す」「申し上げる」をはじめ、ビジネス会話教科書に多く使用されている複合動詞は、中上級教科書にほとんど掲げられていないことが明らかになった。それらの複合動詞は現実のビジネス場面で多く使われる語と考えられ、慣用表現などに配慮した教科書の編纂が必要であろうと思う。

### 1. はじめに

これまでに官公庁、公的機関や人材会社が実施した調査では、外国人留学生の採用にあたって企業が日本語能力を重視していることが指摘されてきた。経済産業省の調査では、外国人留学生採用の決め手となった理由として、最も多くの企業が「日本語能力」を挙げている。日本で就労する上で、日本語が重要であることは疑う余地がない。就職活動をはじめにあって、日本企業が留学生に、何を求めているのかを知ることが大切である。それに関しては、独立行政法人労働政策研究・研修機構の「企業における高度外国人材の受入れと活用に関する調査」によると、仕事に必要な日本語能力のレベル：報告書等の文書を作成できるレベル60.8%、ビジネス上のやり取りができるレベル24.3%、簡単な日常会話ができるレベル11.7%、日本語はほとんど必要ない0.3%、その他3.0%と示されている。以上のデータからみると、文書作成とビジネス上のやり取りの能力が計85.1%となり、かなり重要であると見られ、特に日本で就職する場合は十分に重視するべきであると思う。

中級レベルの語彙はすでに十分取得していて、更に上級レベルの語彙を使いこなせるよ

うにしたい場合は、自分の言いたいことが的確になり、相手にもはっきり伝わる日本語能力が求められる。つまり、コミュニケーションが更に期待される。一つの言葉が一つの意味を表すのではなく、他の言葉と結びついた時には別の意味が加わることもあるので、その学習が多岐に渡って行われなければならない。本稿ではそのなかでもことに学習困難点の一つである「動詞+動詞」タイプの複合動詞について考察を加える。

影山（1993）では、生成文法の見地から、「動詞+動詞」タイプの複合動詞を、語彙的複合動詞と統語的複合動詞に分類されている。そのうち、語彙的複合動詞は、語彙部門で形成され、レキシコンに記述されるタイプの複合動詞である。統語的複合動詞は統語部門で形成される。統語的複合動詞の前項・後項動詞は、「食べ始める」（＝食べるのを始める）というように補文的な関係を持ち、意味的に透過的な合成が行われる。また、森田（1991）によれば、『例解国語辞典』（1956）を調査した結果、日常的に使用している動詞の四割が複合動詞であり、その総数は1,817語になるという。石井（2007）によると、複合動詞の数は2,494語に上っている。確かに、すべての複合動詞を習得するのは無理があり、またその中には日本語母語話者もあまり使用していないものが含まれているので、せっかく習っても使う機会がない場合もあると考えられる。

## 2. 研究目的

現在の日本語教育において、複合動詞の指導はそれほど重視されていないといえる。本動詞が基調となる初級では複合動詞はほとんど導入されず、中級以降でも体系的な指導がされていない。複合動詞は単純動詞より複雑であるため、豊かな表現力を有しており、豊富な体系を持っている。習得しにくいと考えられているが、言語生活に重要な役割を果たし、中級・上級に達した学習者にはぜひとも習得させたい表現である。しかし、中上級学習者にどのような複合動詞を選び出し教えればよいか明確にはされていないという状況がある。一方で留学生の就職状況を考慮に入れると、最新の情報である法務省入国管理局『平成26年における留学生の日本企業等への就職状況について』により、商業・貿易分野に従事する人数が最も多い（2,926人、22.6%）。そのため、伝えられた内容を正確に理解し、そして自分の意思を明確に表すために、ビジネス場面に多く使われる複合動詞の学習が必要と思われる。

本研究では、多くの学習者に使用される教科書を対象として、中上級日本語教科書に使われている複合動詞の出現頻度を調査する。また、ビジネス会話教科書と比較して、就職活動や仕事場面などによく使われる複合動詞をまとめる。教科書における複合動詞の扱い

状況を分析することで、頻度の高い複合動詞の特徴を見出して、それに配慮した日本語教科書の編集の必要性について提言することを目的とする。

### 3. 日本語教科書における複合動詞

まず、以下の教科書に現れた複合動詞を抽出し、その使用状況を考察する。考察対象は日本で出版され、多く使用されている中上級日本語教科書（readingを中心に）である。以下に書誌を示す。

『中級から学ぶ日本語』荒井礼子 太田純子 亀田美保 木川和子 桑原直子 長田龍典 松田浩志 2006 研究社

『上級で学ぶ日本語』阿部祐子 亀田美保 桑原直子 田口典子 長田龍典 古家淳 松田浩志 2010 研究社

『上級へのとびら』岡まゆみ 筒井通雄 近藤純子 江森祥子 花井善朗 石川智 2009 くろしお出版

『中上級日本語教科書 日本への招待』近藤安月子 丸山千歌 2010 東京大学出版会

表1.

三冊に出現した複合動詞	二冊に出現した複合動詞				
繰り返す	作り出す	投げかける	生み出す	考え直す	飛び出す
受け入れる	走り回る	踏み込む	申し合わせる	巻き込む	打ち出す
結び付く	振り返る	思い出す	入り込む	見直す	出来上がる
見つめる	引っ張る	受け止める	取り組む	見逃す	出会う
見つける	言い切る	使い分ける	取り入れる	見失う	乗り越える
付き合う	問いかける	盛り上がる	切り捨てる	見上げる	乗り切る
	呼びかける	飛び回る	落ち着く	見出す	成り立つ
	はみ出す	立ち寄る	話しかける	抱き合う	

表1に示したように、「繰り返す」「受け入れる」「結び付く」「見つめる」「見つける」「付き合う」は三冊に取り上げられ、一番多く使用されていると判断できる。四冊すべてで複合動詞249語が新出単語の学習項目として取り上げられ、読み方も示されている。そのうち、『中級から学ぶ日本語』『上級で学ぶ日本語』『中上級日本語教科書 日本への招待』はそれらの複合動詞について、ただ単語をそのまま提示するのに対して、『上級へのとびら』は

読み方、品詞、英語の意味解釈とその単語の出ている本文の位置が明記されている。例としては、

(1) (～に) 聞き返す ききかえす u-Vi to raise a question about something that has just been said Ttl

(2) (～を) 使い分ける つかいわけ ru-Vt to use different things properly according to the situation / 使い分け (N) 5

比較してみると、学習者にとって、このような具体的な説明はより分かりやすい。助詞も学習困難点の一つとして、複合動詞と同時に提示されており、容易に正確に覚えらるゝと考えられる。

## 4. ビジネス会話教科書における複合動詞

### 4.1 各教科書の調査結果

調査対象は日本で多く使用されている代表的な以下の四冊の中上級教科書である。

『しごとの日本語 電話応対基礎編』奥村真希 釜淵優子 2009 アルク

『聞いて覚える話し方 日本語生中継 中～上級編』梶本絵子 2010 くろしお出版

『上級から超級へ 日本語超級話者へのかけはし』荻原稚佳子 齊藤真理子 伊藤とく美2010 スリーエーネットワーク

『実用ビジネス日本語』TOP ランゲージ1993 アルク出版

日本語教科書における複合動詞の取り扱いについて、市販の中級及び上級日本語会話教科書に掲載されている複合動詞を調査し、どのような複合動詞が取り上げられているかを考察した。調査にあたって、表記のゆれ、つまり、「申し上げる／申しあげる／もうし上げる／もうしあげる」や「ない形」、「ます形」、「命令形」、「推量形」などの文法項目による語尾変化などを全部含めた。調査結果は以下の通りである。

上記の方法で調査した出現頻度2以上の複合動詞を頻度順に表2に示す。

表2. 『しごとの日本語 電話応対基礎編』

『しごとの日本語 電話応対基礎編』		
順位	複合動詞	出現頻度
1	恐れ入る	48
2	申し伝える	21
3	かけ直す	18
4	申し上げる	10
5	取り次ぐ	7
5	聞き取る	7
7	差し上げる	4
8	差し支える	3
8	繰り返す	3
8	聞き返す	3
9	存じ上げる	2

電話応対はビジネスの基本として、会社の印象を左右する重要な仕事といえる。声だけのコミュニケーションなので、表情や態度が見えないだけに、よりいっそう、細やかなマナーや配慮が求められる。日本語ネイティブが話す自然な日本語、教科書どおりではない言い回しや表現を聞き取れ、そのときに使われた複合動詞の意味理解や使えることが大事であろう。

本書は電話を「受ける」、「かける」と両方共通の3部分に分けられている。計35Unit。その中で、「受ける」1～20Unit、「かける」21～29Unit、共通は30～35Unitとなっている。複合動詞は合計42語用いられている。「恐れ入る」が最も取り上げられ、48例である。用件確認／自分への用事するとき／担当者への取り次ぐ／担当者が電話中・離席中・不在のときの対応／ほかの番号へかけ直してもらう／該当者がいないときの対応／間違い電話を受けたとき／復唱する／相手を待たせているとき／自分で対応できないとき／問い合わせをする／伝言を頼む／コールバックすることを伝える／コールバックしてもらう／至急のとき／留守番電話に伝言を残す／間違い電話をしたとき／よく聞き取れないとき／相手が名乗らないとき／というような場面で取り上げられている。例文は以下の通りである。

例(3) **恐れ入**りますが、営業部の田中様はいらっしゃいますでしょうか。

(用件確認 p24)

(4) お忙しいところ**恐れ入**ります。東北電工の佐藤と申します。田中様をお願いできますでしょうか。

(自分への用事の場合 p28)

(5) 大変**恐れ入ります**が、おかけ直しいただけますでしょうか。

(他の番号へかけ直してもらう p 48)

(6) そうですか。では**恐れ入ります**が、お席に戻られてからで結構ですので、折り返し電話をいただきたいんですが…… (コールバックしてもらう p 121)

本書は複合動詞の学習項目として取り上げられていないが、「語彙・表現」のところに、「恐れ入ります」は、「何かをしてもらうときに頻繁に使うクッションワード。これを使うと、丁寧で軟らかい言い方になる」というように詳しく場面や状況を設定して、説明されている。一方、複合動詞の「恐れ入る」ではなく、配慮表現の「恐れ入ります」を一つまとめとして提示したほうがよいと思う。会話の内容には直接影響しないものの、会話の雰囲気や相手への印象をよくする表現である。ビジネス場面で円滑なやり取りを向上させるために、このように機能や効果などを提示することが必要であろう。

その次は、「申し伝える」21例、「かけ直す」18例、「申し上げる」10例、「取り次ぐ」7例の順で並ぶ。以下の例を見る。

例(7) 戻り次第こちらからご連絡するよう**申し伝えます**が、いかがでしょうか。

(担当者離席中のときの対応 p 41)

(8) A：こちらからご連絡差し上げるように**申し伝えます**が、いかがでしょうか。

B：そうですね、いや、後ほどこちらから**かけ直**します。

(担当者不在のときの対応 p 44)

(9) 何か**申し伝え**ましょうか。

(伝言を受ける p 68)

(10) さようでございますか。そちらを**申し伝**えます。

(復唱する p 76)

(11) 私ではお答えできかねますので、担当の者に**申し伝**えます。

(自分で対応できない場合 p 97)

(12) それでは、こちらの空いている時間**にかけ直**します。

(コールバックしてもらう p 63)

「取り次ぐ」「かけ直す」は記述されている。

例えば、P37では「こちらからかけ直させます」について、具体的には以下のように書かれている。「言い方のバリエーションとしては、『こちらから(折り返し)お電話いたします(差し上げます)』『こちらから折り返します』など。」また、P44では「申し伝えます」は「相手からの伝言や依頼の内容などを、自分の会社の社員に伝えるときは、謙譲の表現の『申し伝える』をよく使う。社内電話では『伝えます』でよい。」というような、社内内の状況を踏まえたうえで、慣用表現を取り上げ、言い換えを提示しながら説明されてい

る。ただし、品詞の分類は書かれていない。

表3. 『聞いて覚える話し方 日本語生中継』中～上級編

『聞いて覚える話し方 日本語生中継』		
順位	複合動詞	出現頻度
1	話し合う	4
2	引き受ける	4
3	かけ直す	3
4	仕上げる	3
5	申し出る	2
6	受け取る	2

毎日の話すことと聞くことが同時に求められる会話場面で多く使われる表現を中心に書かれている。

対象者は日本語に関する知識は豊富だが、日本社会で使われているような自然な日本語に慣れていない上級レベルの日本語学習者である。

テキストの全体構成は課ごとに中心となる機能を設定している。取り上げている機能は、「伝言をする／勧誘する／許可を求める／情報を伝える／依頼・指示する／文句を言う／提案する／感想」である。

計13語見られる。「話し合う」と「引き受ける」が一番多く使われ、4例である。次は「かけ直す」、「仕上げる」、「申し出る」、「受け取る」が多く取り上げられている。課ごとに単語リストがあるが、リストにある複合動詞は「落ち着く」の1例しか見られない。

表4. 『上級から超級へ 日本語超級話者へのかけはし』

『上級から超級へ 日本語超級話者へのかけはし』						
順位	複合動詞	出現頻度		順位	複合動詞	出現頻度
1	受け止める	6		9	差し支える	2
1	振り込む	6		9	話し合う	2
3	取り組む	5		9	思い出す	2
4	申し上げる	4		9	押しつける	2
4	取り上げる	4		9	買い替える	2
6	繰り広げる	3		9	乗り越える	2
6	切り出す	3		9	割り切る	2
6	受け入れる	3		9	出し合う	2
9	盛り上がる	2		9	信じ込む	2

「本書の理念」には、「学習者は話題にふさわしい語彙や慣用句などこなれた表現がよく使えないと意識しながら、語彙・表現を豊かにしている。」(4頁)と書かれている。本書対象者は上級以上の学生、社会人である。今回の調査対象の中で複合動詞が一番多く取り上げられ、12課に計61語見られる。表4のように、「受け止める」「振り込む」「取り組む」「申し上げる」「取り上げる」が最も多く使用されている。超絶話者も対象にしているため、前項動詞と後項動詞の使用や、提示される単語数がほかの三冊より多いと考えられる。

表5. 『実用ビジネス日本語』

『実用ビジネス日本語』		
順位	複合動詞	出現頻度
1	申し上げる	6
2	受け取る	2
3	落ち込む	2
4	聞き取る	2

本書は全10章で、場面によって、挨拶、電話応対、依頼、注文する、誘う、許可、アドバイス、情報伝達、意見陳述、意見交換と分けられている。計35語の中で、「申し上げる」が6例で最も多く使われている。このような例が見られる。

例(7) ご逝去を悼み、つつしんでお悔やみ**申し上げ**ます。(慶弔電報例 p52)

(8) 長谷川：まだ長くかかりそうですか。

金 井：なんとも**申し上げ**られませんが…。お待ちになりますか。

(実用会話5 p70)

(9) 今のところ、これ以上**申し上げ**られませんので、上の者が戻りしだい相談いたしまして、折り返しお電話さしあげるといことできがでしょうか。

(その他の電話のトラブル p87)

(10) かいつまんで**申し上げ**ますと……(報告する p130)

(11) 繰り返し**申し上げ**ますが……(意見交換 p163)

ところが、この教科書は学習項目として語彙リストなどが設けられていない。まとめられていないため、複合動詞の存在感が弱い印象を受ける。学習者にとっては、慣用表現はもちろん単語の提示も必要であろうと思う。

## 4.2 ビジネス会話教科書における複合動詞の傾向

以上の四冊の教科書に出現するすべての複合動詞の使用状況を考察するために出現頻度の多い順に配列したのが表6である。

表6. ビジネス会話教科書における複合動詞

複合動詞	出現頻度	複合動詞	出現頻度
恐れ入る	50	繰り広げる	3
申し伝える	22	聞き返す	3
かけ直す	22	思い出す	3
申し上げる	20	切り出す	3
聞き取る	9	落ち込む	3
引き受ける	7	折り返す	2
取り組む	7	押しつける	2
取り次ぐ	7	信じ込む	2
振り込む	6	盛り上がる	2
受け止める	6	申し付ける	2
話し合う	6	申し出る	2
取り上げる	5	取り付ける	2
差し支える	5	買い替える	2
繰り返す	4	見当たる	2
受け入れる	4	割り切る	2
受け取る	4	存じ上げる	2
仕上げる	4	出し合う	2
差し上げる	4	乗り越える	2

上の表6によると、全体における上位5項目は、「恐れ入る」50例、「申し伝える」22例、「かけ直す」22例、「申し上げる」20例、「聞き取る」9例である。そのうち、V2と結合する前項動詞「取り～」（10%）、「申し～」（10%）、「受け～」（8.3%）、V1と結合する後項動詞「～上げる」（16.6%）、「～込む」（8.3%）が多く見られる。

また、表1の中上級日本語教科書に多く使われた複合動詞と比べてみると、「繰り返す」「受け止める」「受け入れる」「盛り上がる」「取り組む」「乗り越える」が両方とも多く使われており、学習する際に重視すべき語であると考えられる。一方で、「恐れ入る」「申し伝える」「かけ直す」「申し上げる」をはじめ、ビジネス会話教科書に多く使用されている複合動詞は、中上級教科書にほとんど掲げられていないことが指摘できる。また、課ごとに場面を設定しているが、複合動詞については具体的に慣用表現や言い換えの説明が少な

い点も認められる。

## 5. まとめ

本研究は、多く使用される計四冊教科書における複合動詞の使用状況を考察することで、中上級日本語教科書に使われている複合動詞の出現頻度を明らかにした。さらに、ビジネス会話日本語教科書を四冊と比較して、就職活動や仕事場面などによく使われる複合動詞に検討を加えて、多く使用される複合動詞の順位を考察した。

複合動詞は学習者にはかなり難しいところであり、中上級の学習項目としてさらに重視されるべきであろうと考えられる。日本語母語話者には簡単な語彙であっても、日本語学習者にとって容易に習得できるとは言えない。そこで、効率よく習得するために、ビジネス場面で高頻度で出現する複合動詞は日本語教育において重視すべきであると考えられる。一方で、日本語を学習する際に教科書は教育活動の中心的な教材として、教育に重要な役割を担っている。ほかの教科書で現れる複合動詞よりもビジネス場面で多く取り上げられた複合動詞の語や形式に特徴があるため、より具体的に慣用表現などを配慮した教科書の編纂が必要であろう。また、何を重視すればよいかを解明したうえで、どういうふうに教えればよいかがこのからの課題となる。

## 参考文献

- 石井正彦（2007）『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房
- 影山太郎（1993）『文法と語構成』ひつじ書房
- 何志明（2015）「日本語教育のための複合動詞」の枠組み構築を目指して 『ビジネス日本語教育の展開と課題』ココ出版
- 財団法人 海外技術者研修協会広報課（2007）平成18年経済産業省委託「日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究」
- 陳曦（2004）「中国人学習者における複合動詞の習得に関する一考察—「～あう」と「～こむ」の理解に基づいて—」『ことばの科学』
- 法務省入国管理局（2014）「平成26年における留学生の日本企業等への就職状況について」広報資料
- 松田文子（2002）「日本語学習者による複合動詞「～こむ」の習得」『日本語教育論集 世界の日本語教育』12 pp.43-59
- 森田良行（1991）『語彙とその意味』アルク

渡辺博頭（2013）「日本で高度外国人材が働くことについて」『企業における高度外国人材の受入れと活用に関する調査』独立行政法人 労働政策研究・研修機構

## 調査日本語教科書

阿部祐子 亀田美保 桑原直子 田口典子 長田龍典 古家淳 松田浩志（2010）『上級で学ぶ日本語』研究社

荒井礼子 太田純子 亀田美保 木川和子 桑原直子 長田龍典 松田浩志（2006）『中級から学ぶ日本語』研究社

岡まゆみ 筒井通雄 近藤純子 江森祥子 花井善朗 石川智（2009）『上級へのとびら』くろしお

荻原稚佳子 齊藤真理子 伊藤とく美（2010）『上級から超級へ 日本語超級話者へのかけはし』スリーエーネットワーク

奥村真希 釜淵優子（2009）『しごとの日本語 電話応対基礎編』アルク

近藤安月子 丸山千歌（2010）『中上級日本語教科書 日本への招待』東京大学出版会

相本綾子（2010）『聞いて覚える話し方 日本語生中継 中～上級編』くろしお出版

TOP ランゲージ（1993）『実用ビジネス日本語』アルク

